

先輩からのメッセージ

デジタルで 地域のか 未来につなぐ

Ministry of Internal Affairs and Communications Shinetsu Bureau of Telecommunications

総務省 信越総合通信局



信越総合通信局へようこそ

信越総合通信局は新潟県と長野県を所管する総務省の地方支分部局です

初めて知る方もいらっしゃると思います

私たちのしごとは、携帯電話や放送の監理、インターネットのサイバー対策など
生活に深く関わっています

さらに航空機・船舶の安全運航に欠かせない無線局の許認可や不法無線局の対策
情報通信による防災対策など安全・安心な暮らしにもつながっています

また、地域のニーズに応じたデジタルインフラの整備の推進と
デジタル技術の活用による持続可能な地域社会の実現をめざしています

ここでは、信越総合通信局で働く先輩たちが、それぞれの経験や仕事のやりがい
職場の雰囲気について紹介しています

いろいろな立場・年次のリアルな声を通して
少しでも働くイメージを持つきっかけになればうれしいです

安心して仕事を覚えられる環境

先輩からのメッセージ

採用2年目の職員から1年間信越総合通信局で働いてみて感じたことを聞きました

Q 志望動機について教えてください

もともと長野で働きたいという思いがあり、地方で働ける国家公務員を志望していました。総合通信局を知ったきっかけは、一次試験後に大学の公務員講座で見かけた業務説明会のチラシです。実際に説明会に参加して若手職員と話したことで、「雰囲気良さそう」と感じたことも大きな決め手になりました。

Q 担当している業務について教えてください

主に電気通信事業に係る許認可を担当しています。具体的には、インターネットを介して事業を行う企業やケーブルTV事業者、地方公共団体などが新たに電気通信事業を行う際の手続きや、携帯電話の販売代理店の申請審査などを担当しています。あわせて、e-ネットキャラバン(保護者や学校の教職員、児童生徒を対象とするインターネットの安心・安全な利用のための出前講座)の関係業務として、講師の選定や依頼なども行っています。

Q 1年間働いてみて大変だったことはありますか？

最初は覚えることが多く、特に法律や制度に関する知識を一つ一つ理解していくことが大変でした。ただ、分からないことがあっても自分で調べたり、先輩職員に相談しながら進めることができたので、一人で抱え込まずに業務に取り組みました。

新しいことを覚える大変さはありませんでしたが、自分のペースで学びながら仕事ができたと感じています。

Q 職場の良さを感じた点を教えてください

周囲に経験豊富な先輩職員が多く、分からないことをすぐに聞ける環境があったことは非常に助かりました。また、若手職員とも話す機会があり、業務のことだけでなく職場の雰囲気や職員同士の関わりについても知ることができたのは安心材料になりました。働き方の面でも残業はほとんどなく、ワークライフバランスを保ちながら働けている点はよかったと感じています。

Q 当局のPRポイントを教えてください！

一番の魅力は、やはり転勤がないことです。加えて、残業が少なくワークライフバランスが取りやすい点も大きな特徴だと思います。また、通信分野に関する業務を通して専門性を高めていける点も魅力の一つです。さらに、来年度には新しい庁舎が完成する予定で、より良い環境で働けることも期待しています。



情報通信部 電気通信事業課
令和7年 行政採用(経法学部出身)

情報通信の最前線に触れた2年間

先輩からのメッセージ

2年間の本省勤務を終え今年の5月に帰局した職員に本省での働き方を聞きました

Q 志望動機とこれまでの業務経験を教えてください

大学は工学部で通信分野を専攻していました。もともと通信系の分野に関心があり、自分の専攻が活かせる仕事を考える中で、「通信を所管する行政」という選択肢に興味を持ちました。

採用後は情報通信振興課に配属され、通信技術を活用した地域課題の解決に関する業務に携わり、新しい通信技術の普及展開に関わりました。こうした経験をきっかけに先進的な取組に関われる業務に携わりたいと考えて希望したところ、本省異動の際には、研究推進室へ配属になりました。

Q 本省ではどのような業務を経験しましたか？

研究推進室では、1年目は庶務、2年目は委託研究に関する業務に携わりました。脳情報通信分野の研究や、次々世代で活用が期待される新素材を用いた半導体の研究、未開拓領域とされる超高周波数帯での通信技術の研究など、最先端分野に関する案件を扱いました。

研究そのものを行うのではなく、研究テーマの形成や予算要求の調整、契約や執行管理といった立場で関わりました。

Q 本省での経験で印象に残っていることはありますか？

最も印象的だったのは、「情報通信」の分野の広さを実感できたことです。例えば、脳の研究や生物の神経回路の研究など、一見通信とは関係がなさそうな分野も「電気信号」という観点から情報通信として扱われており、分野の広がりには驚きました。また、20～30年単位で成果が出るような長期的な研究もあり、国の施策として関われる範囲は限定的であるという実感も得ました。研究機関への視察や出張を通じて、実際の現場で話を聞くことで新たな視点が得られたことも、大きな学びでした。

Q 本省勤務を経て感じたことを教えてください

本省では突発対応が多く、どうしても受動的な働き方になる場面が多いと感じました。一方で、地方局では自分のペースで業務を進めやすく、働き方の違いを実感しました。また、本省での経験を通じて、現場に足を運んで話を聞くことの重要性を感じたため、今後はより積極的に外に出て情報を取りにいく姿勢を大切にしたいと考えています。

Q 当局のPRポイントを教えてください！

セミナーの企画など創造性を発揮できる業務と、許認可のように法令に基づいて進める業務の両方を経験できる点は大きな魅力です。また、勤務地が大きく変わらないため、将来設計を立てやすく、安定した環境で働ける点も特徴だと思います。



無線通信部 電波利用企画課
令和4年 技術採用(工学部出身)

本省と地方で感じた仕事の違い

先輩からのメッセージ



総務部 総務課
令和3年 行政採用(人文学部出身)

本省から帰任して1年が経過した職員に本省と信越総合通信局での働き方の違いについて聞きました

Q 志望動機とこれまでの業務経験を教えてください

自治体や他の国の機関など複数の進路を検討していましたが、最終的には国家公務員として、地方勤務だけでなく本省勤務も経験できる点に魅力を感じ、総合通信局を選びました。

採用後は有線放送の担当として、登録や届出の処理に携わりました。その後、本省に異動し、庶務業務を中心に、補助金の予算要求や部内のとりまとめ、委託事業関連の調整など、さまざまな業務を経験しました。配置換えも複数回あり、一つの分野を深堀するというよりは、幅広く業務に関わっていました。

現在は総務課に所属しており、信越総合通信局全体に関わる庶務業務を担当しています。本省と同様に庶務系の業務が中心であるため、大きく業務内容が変化したというよりは、業務の進め方や職場の雰囲気の違いを感じながら働いているという印象があります。

Q 本省と信越総合通信局で働き方に違いはありましたか？

一番大きな違いは、業務の進め方と責任の持ち方だと感じています。本省では、業務ごとに担当が明確に分かれており、基本的に「個人単位で仕事を進める」場面が多かったです。同じ係でも担当が異なると関わりが少なく、ある程度は独立して仕事を進めていく印象でした。一方で信越局では、係として業務を進める意識が強く、チームで仕事を進める感覚や、相談のしやすさを感じています。

Q 今の職場の雰囲気を教えてください

最近は若手職員が増えてきており、職場の雰囲気も少しずつ変わってきていると感じています。以前に比べると年齢構成のバランスも変わり、同世代の職員と一緒に働ける環境になってきている点は大きな変化です。これからは、自分たちで職場の雰囲気や働き方を作っていける部分もあるのではないかと感じています。

Q 当局のPRポイントを教えてください！

情報通信分野は技術の進歩が早く、新しい動きに触れられる機会が多い点が魅力です。先進的な分野に関わることができるため、新しいことに関心のある人にとってはやりがいを感じやすい環境だと思います。また、自分のペースで仕事を進めやすい点や、働き方に余裕を持てる点も働きやすさにつながっています。

志望のきっかけと働いてみて感じたこと

先輩からのメッセージ

新規採用者3名から信越総合通信局の志望理由と実際に働いてみた感想を聞きました



医療から通信へ 自分に合う働き方を求めて

無線通信部 無線通信課 教養採用
(医療系大学出身)

前職の医療関係の仕事から信越総合通信局に転職しました。
志望した一番の理由は、転勤がないことです。長野県出身なので、県内で働きたいという思いがありました。
また、医療とは違う形ではありますが、通信を通じて災害時などに人の命や安全を守れる点にも魅力を感じました。
ワークライフバランスは大きく改善し、自分のペースで仕事を進められるようになりました。
一方で、デスクワーク中心の働き方や、外部との電話対応には最初は戸惑いもありましたが、先輩職員のサポートもあり徐々に慣れてきました。
医療現場で身につけた「ミスを防ぐために丁寧に確認する姿勢」は、現在の業務でも活かせていると感じています。

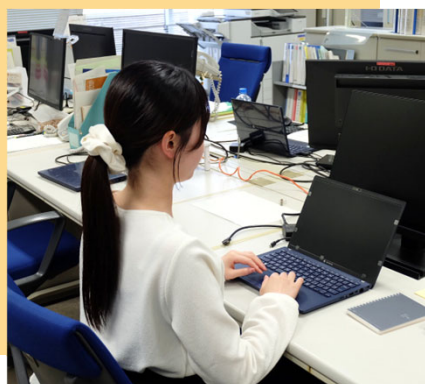


地元で働く国家公務員という選択

情報通信部 放送課 行政採用
(経済学部出身)

大学では主に憲法や行政法を学び、公務員講座を受けながら国家公務員を志望していました。長野県出身ですが、大学は県外だったので、地元に戻って働きたいという思いがあり、地方で働ける国家公務員を中心に探していました。
市役所や県庁のインターンにも参加しましたが、最終的には、長野で働けること・転居を伴う異動がないこと・国家公務員として働けることに魅力を感じて志望しました。

文系出身で通信分野の知識がほとんどなかったため、不安はありましたが、研修や配属後の業務を通じて、すぐに専門的なことを求められるわけではなく、少しずつ理解を深めていける環境だと感じています。特に、資料や解説がフォルダに整備されており、自分で調べながら学べる環境があるのは助かっています。
最初は分からないことも多かったですが、文系出身の職員も多く、「なんとかなる」と感じながら仕事に取り組んでいます。



一つの分野で専門性を高める働き方

情報通信部 情報通信振興課 行政採用
(経法学部出身)

信越総合通信局を志望した理由は、転勤がないことを重視していたためです。
通信分野に対する不安はありませんでしたが、むしろ異動のたびに業務内容が大きく変わることの方が不安でした。
そのため一つの分野で専門性を高めていく働き方が、自分に合っていると考えたことも志望理由の一つです。

現在は情報通信振興課で、総務省事業の周知・広報業務を中心に取り組んでおり、事業内容を自分の言葉で説明できるよう勉強している段階です。実際に働いてみて、情報通信振興課では想像以上に企業に関連する業務もあり、大学で取り組んでいた内容が活かせる場面もあるのではないかと感じています。

また、働き方については自分のペースで調整しやすく、年休も取りやすいなど、プライベートとの両立がしやすい環境だと感じています。

育児と仕事を無理なく続けるために

先輩からのメッセージ

3人の子どもを育てながら働く職員の働き方や日々の工夫についてご紹介します

Q 現在担当している業務について教えてください

現在は無線局の許認可業務を担当しており、主に企業関係として、携帯電話会社や鉄道会社、電力会社などの案件を扱っています。

無線局の申請手続きは電子化が進んでおり、以前と比べると電子申請が中心になっていますが、一部紙での申請も残っています。電子申請はテレワークでの対応もできますが、紙の処理が必要な場合は出勤して対応しています。

また、電話対応も一定数あり、外部の事業者からの問い合わせ対応も行っています。

Q 育児のために休暇は取得しましたか？

配偶者出産休暇や育児参加のための休暇の制度を活用して、約1か月程度取得しました。もう少し伸ばしたい気持ちもありましたが、給与が減らない範囲での休暇を利用した形です。

Q 現在の働き方について教えてください

現在はフルタイム勤務をベースとしつつ、昼休みを30分に短縮することで、8時30分から16時45分までの勤務に調整しています。

保育園の送迎に合わせて、朝や夕方に年休を活用することも多く、例えば朝1時間休みを取って送りに行く、あるいはお迎えに間に合うよう早めに上がるといった形で柔軟に対応しています。

また、テレワークは週2回程度実施しています。ただし、紙の申請対応や電話対応などの関係で、完全に在宅中心という働き方にはなっていません。チームで仕事をしているため、周囲とのバランスを考えながら取り入れている状況です。

Q 育児と仕事を両立する中で助かっているポイントはありますか？

一番大きいのは、やはりテレワークができる点です。毎日でなくても、必要なときにスポットで使えるだけでもかなり助かっており、「できる」という選択肢があること自体に価値を感じています。

また、勤務時間を調整できる制度や、年休を柔軟に使える点もありがたいと感じています。

こうした制度があることで、家庭の事情に合わせた働き方が可能になっています。もちろん大変な面もありますが、両立しやすい環境であると感じています。



無線通信部 無線通信課

総合通信局から南極へ—通信で命を守る

先輩からのメッセージ



第67次南極地域観測隊



一日のスケジュール(冬日課)

- 8:00 起床
- 8:30 朝食
- 8:45 通信ワッチ開始、メール確認
- 9:00 ミーティング
- 9:30 日本との通信テスト
- 12:00 昼食
- 13:00 整備記録作成
- 18:00 夕食
- 18:45 ミーティング
- 20:00 業務終了
- 20:30 リフレッシュ(雑談やゲーム)
- 24:00 就寝

信越総合通信局から南極地域観測隊に参加している職員からのメッセージ

第67次南極地域観測隊に通信隊員として参加し、現在は昭和基地で越冬生活を送っています。南極観測隊という選択肢を知ったのは、新規研修の際、偶然にも教官が経験者の方だったことがきっかけでした。それまで自分のキャリアの中に「南極で働く」という発想は全くありませんでしたが、教官から聞く現地での経験談はどれも刺激的で、未知の世界に挑む面白さを強く感じました。

そこから総合通信局の業務を行うにあたり、経験豊富な先輩方に支えられてきました。困ったときには必ずサポートしていただき、その姿勢に触れるたびに「自分もいつか、誰かを支えられるだけの経験を積みたい」と思うようになりました。そこから南極観測隊への参加を真剣に考えるようになり、必要となる資格の取得に取り組みしました。

通信隊員としての主な業務は、無線通信の運用や無線機・アンテナの保守です。南極では日常的な事務連絡から、悪天時の人員確認や緊急通報まで全て無線で行っています。

常に通信をワッチし、少しでも異常があれば速やかに隊内へ共有し、必要な対応につなげます。南極の厳しい自然環境では、一つの連絡の遅れが命に関わる可能性もあります。そのため、どんなに小さな作業でも気を抜くことはできません。

安心・安全な生活を支えるという責任を胸に、日々の業務に向き合っています。

もちろん、南極観測隊の生活は楽しいことばかりではありません。しかし、その一方で、総合通信局の業務ではまず出会うことのない多様な専門分野の方々と寝食を共にし、互いに支え合いながら生活することで、多くの学びや刺激を得ています。異なるバックグラウンドを持つ人々が一つの目的のために協力し合う環境は、南極ならではの貴重な体験です。

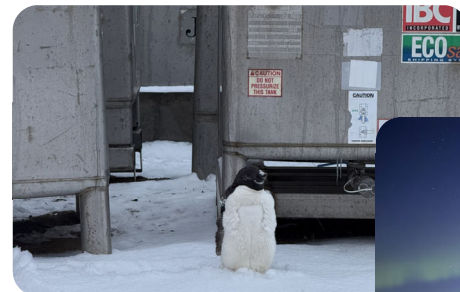
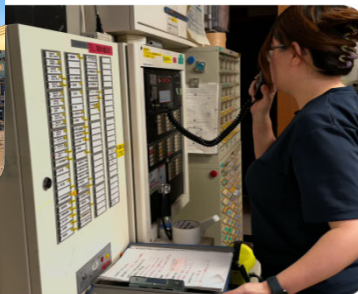
信越総合通信局や総務本省で働く以外にも、こうしたユニークなキャリアの選択肢があることを知ってもらえたら嬉しいです。

少しでも興味があれば、説明会等にご参加ください。皆様とお会いできるのを楽しみにしています。



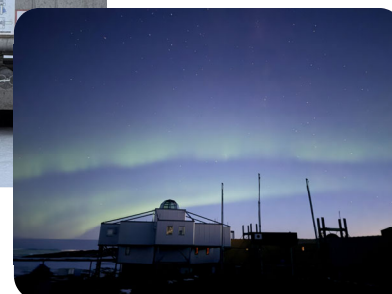
越冬隊集合写真
(越冬交代式)

消防訓練

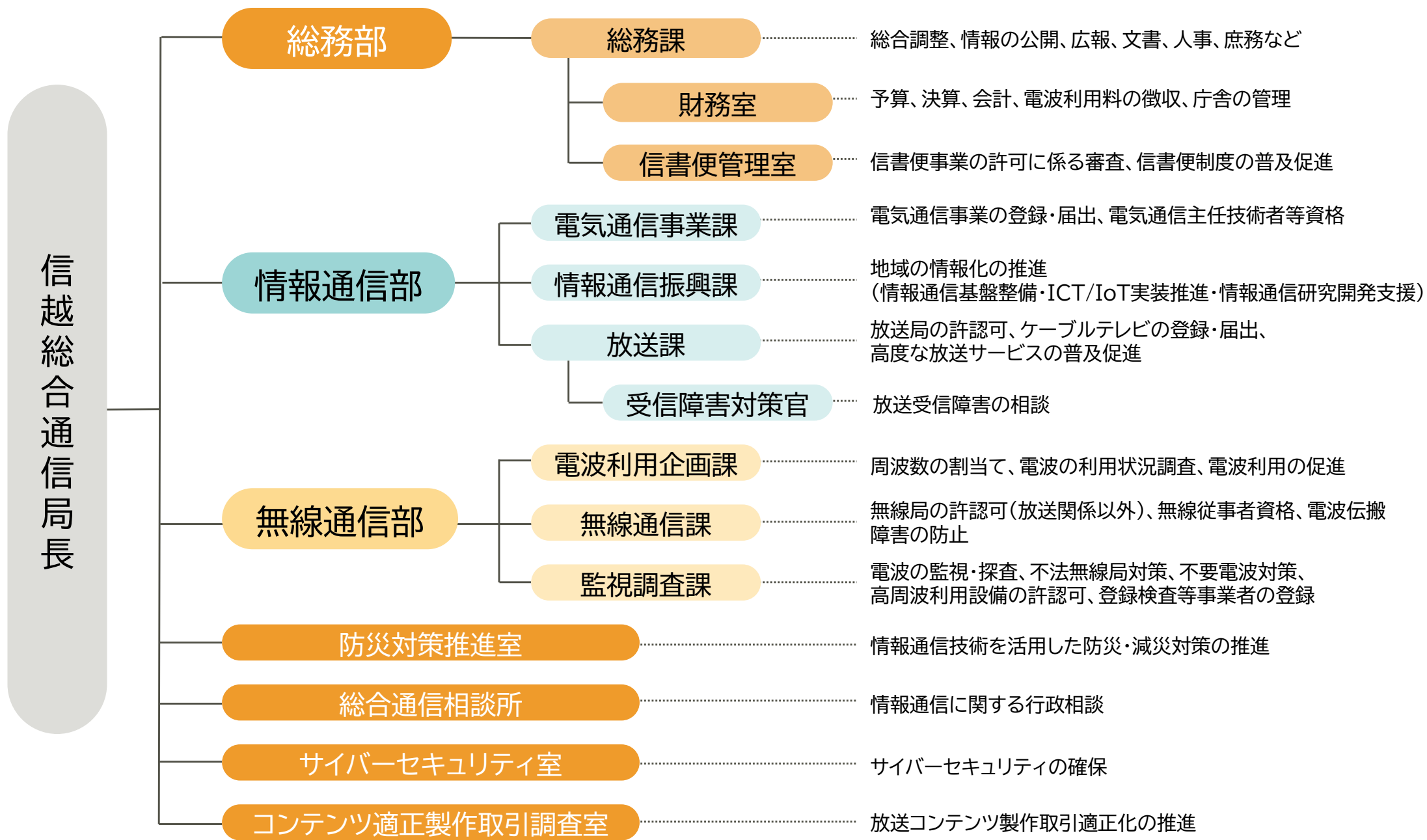


ペンギン

オーロラ



信越総合通信局 組織図



勤務条件・採用

勤務時間

- 午前8時30分～午後5時15分まで(休憩時間:正午～午後1時まで)
 - 育児又は介護、修学等の事情や業務の必要性により早出遅出勤務やフレックス制での勤務も可

テレワーク

- 職員は、所属長からテレワーク勤務の承認を得て、自宅や所属長が認めた場所で業務を行うことができます

休暇

- 土曜日、日曜日及び祝日等の休日並びに年末年始(12月29日～翌年1月3日まで)
- 年次有給休暇:年20日間付与(未使用日数は20日を限度に翌年に繰り越し可)
- このほか、病気休暇、結婚、産前・産後、忌引き、夏期休暇などの特別休暇、介護休暇、育児休業があります

手当等

- 通勤手当、住居手当、扶養手当、期末・勤勉手当(いわゆるボーナス:年2回)など
- 総務省共済組合(医療給付、全国各地の共済施設の優待料金で利用等)への加入

令和9年度採用

- 採用試験区分
2026年度国家公務員採用試験 一般職試験(大卒程度試験)
「行政」、「教養」または技術系全区分
- 採用予定数 3名
- 採用予定日 令和9年4月1日(または令和8年10月1日)

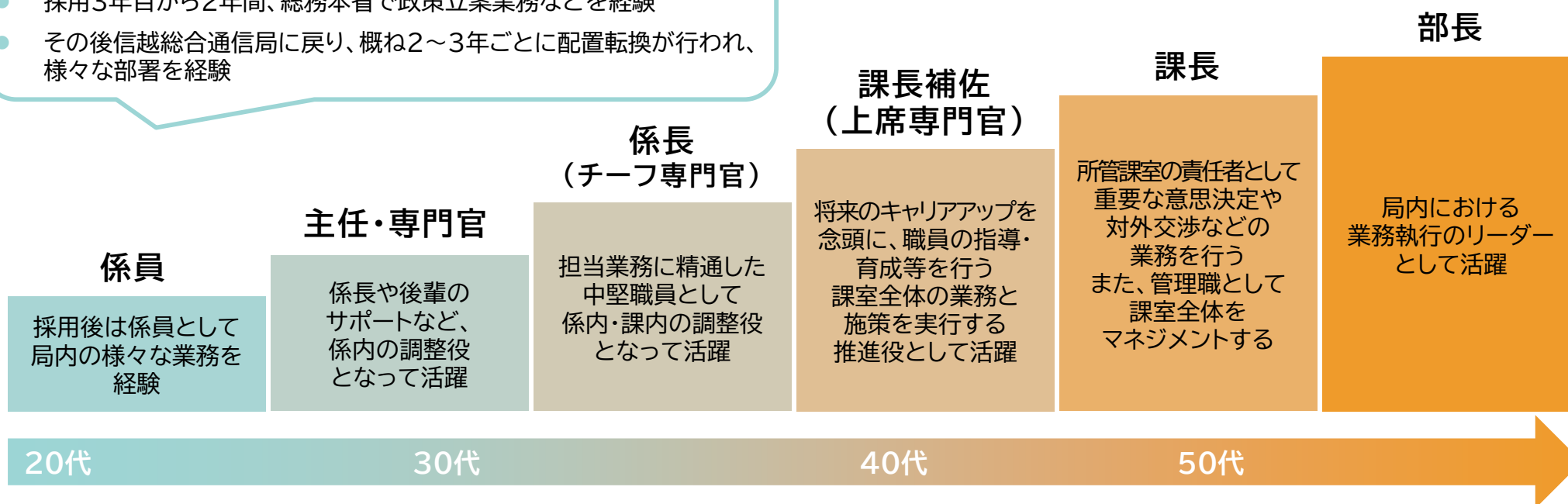
過去5年間の採用状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
男性	5人	1人	3人	4人	2人
女性	-	1人	1人	-	1人

キャリアアップ

採用後の配属

- 官庁訪問、採用面接などで伺った話などを参考に最初の配属先を決定
- 採用3年目から2年間、総務本省で政策立案業務などを経験
- その後信越総合通信局に戻り、概ね2～3年ごとに配置転換が行われ、様々な部署を経験



研修制度

- 入局後は情報通信政策研究所（東京都国分寺市）で実施される新規採用職員研修で、公務員として基本的な心構えや通信行政の基礎的な知識を習得していただきます。
- その後は地方局に戻り、局内研修や経験豊富なベテラン職員のOJTを受けながら、スキルを身に付けていきます。
- また、担当業務に応じた実践的な専門研修を受講することができます。

多様なキャリアパス

- 様々な環境で経験を積み、多角的な視点や調整能力を身に付けることを期待されています。
- 希望すれば本省に転任し、総務本省にて政策立案や予算業務に携わることも可能です。
また、地方公共団体との人事交流や南極地域観測隊への参加経験のある職員もいます。

よくある質問

Q 大学で文系学科を専攻していますが、採用後、技術的なことに対応できるのでしょうか

- 行政・技術の試験区分を問わず採用しています。配属先も採用区分による区分けはしていません。
- 採用後には、情報通信技術に関する専門的な研修を受講する体制があります。
また、経験豊富なベテラン職員が非常に多く、これらの職員によるサポートが整っています。
- これまでの文系学科の採用者の様子を見ても本人の努力は当然ありますが、問題なく業務に携わっています。

Q 勤務地はどのようなになっているのでしょうか

- 新潟及び長野県を管轄していますが、出先機関はありません。採用後、勤務地は長野市となります。
- 採用3年目からの2年間は総務本省(東京)で政策立案業務などを経験していただく機会があります。
- また、経験のため、本省での勤務を希望することも可能です。

Q 出張はありますか

- 配属部署により頻度は異なりますが、出張があります。
(無線局検査、電波監視、警察との共同取り締まり、電波環境調査、自治体・企業等との各種事務打合せ等)
- 新潟及び長野県を管轄していますので、日帰りでは不可能な場合は現地で宿泊することもあります。

よくある質問

Q 残業時間、年次休暇制度など、働く環境について教えてください

- 残業時間は部署ごとに多少差がありますが、昨年度の管理職以外の職員の平均は1ヶ月あたり約10時間となっています。
- 年次休暇は取得しやすい環境で、ゴールデンウィーク、夏季休暇及び年末年始における連続休暇等の取得も奨励しています。
- 総務省では、ワークライフバランスを推進するため様々な取組みを行い働きやすい環境づくりに努めています。

Q テレワーク勤務することは可能ですか

- 職員一人一人に、テレワーク勤務ができるパソコンが配備されるため、柔軟な働き方が可能な環境が整っています。
- 時間と場所を有効利用できることで、仕事と家庭の両立や通勤負担の軽減に寄与していることから総務省として推奨しています。

Q 出産後、子育てしながら働くことは出来ますか

- 出産、育児に関する休暇や制度が確立されていますので、職員が様々な制度を活用しています。
- 出産に関しては、産前休暇(出産予定日の6週間前から取得可能)、産後休暇(出産後8週間取得可能)があります。
- 育児に関しては、産後休暇から引き続いて、子が3歳になるまでは育児休業制度、子が小学校に入るまで育児短時間勤務制度が利用できます。
- 男性についても、妻が出産する場合の休暇(配偶者出産休暇、育児参加のための休暇)が設けられています。

信越総合通信局の採用に関するお問い合わせ

信越総合通信局 総務課人事係

☎ 026-234-9964

✉ shinetsu-jinji@soumu.go.jp

🌐 <https://www.soumu.go.jp/soutsu/shinetsu/>

採用情報はこちら

